

# 震災派遣職員の健康管理を

久保田かずえ町議

大震災の発生から9月11日で半年になりますが、被災者の皆さんは今なお被害に苦しみ、悲しみと、先の見えない不安の中で過ごされています。復興に向けて一番の役割を果たさなくてはならない自治体の機能が大きな打撃を受け、全国の自治体の支援を必要としています。本町は、震災直後から派遣を行ってきましたが、今後も派遣を続けるのか、派遣された職員の健康管理の掌握、残された職員家族のフォロー、職員の抜けた職場の後補充の対応は万全か尋ねます。

町長

復旧、復興に当たっては、国民全体で支援しなければという思いである。この思いは、職員はもとより、職員家族も同じである。今後、町の体制が整い、職員や、家族の理解が得られれば被災地の要請に応えたい。職員の派遣に問題があれば早急に対応していきたい。問題が発生しないよう十分な状況の把握等を行い取り組んでいきたい。

久保田かずえ町議

茨城県、東海村は福島第一原発から120キロ離れているが、情報によると東海村は、3月15日の時点で5マイクロシーベルトと言いう高い放射線が測定されています。東京や、静岡でも高いセシウム量が測定されています。土地の区画整理に派遣されているということだが、濃度の高いところに本人も納得して、家族も了承して行っているのか。また、職員の健康も十分な手立てを行っているということだが、東彼杵町は、健康診断を長崎大学で内部被爆等も含めて行っているという聞いた。本町はどうか。

町長

報道を見る限り、東海村では汚染の心配はないと認識している。職員も、その家族も具体的などころまでは協議していないと思う。正直に言って、そこまで心配はしていない。

久保田かずえ町議

役場には、健康管理委員会があるのでは是非調査をして、健康診査もしてもらいたい。また、派遣職員を出した職場が過重労働になって、健康を害さないようにしてもらいたい。

町長

派遣する時は、各課内で十分協議して、抜けても後の業務に支障がないように作業を進めている。十分配慮をしながら進めている。



いまだバスが屋根の上に  
宮城県石巻市・雄勝

久保田かずえ町議

災害廃棄物の受け入れについて尋ねます。東日本大震災では、津波が発生したことなどにより膨大な災害廃棄物が発生しました。阪神淡路大震災を超える規模になりました。県内では、東彼地区保健福祉組合を含む4つの施設が受け入れに手を上げました。災害廃棄物の受け入れに対する町長の考えを尋ねます。

町長

今回の震災による被害は甚大で膨大な量の損壊家屋等の廃棄物が発生しており、これらは復興に向けての大きな妨げ

となっている。また、衛生状態の悪化による病気の発生等二次災害の発生を招く恐れがある。現地の廃棄物処理施設にも大きな被害が出ている。少しでも協力したいという考えから受け入れを決定した。具体的要請があった時、その都度判断していきたい。

久保田かずえ町議

災害廃棄物の燃えるごみは、福島県に限らず放射性物質は少なからずついており、川棚町にも少なからず入ってくる可能性もある。これを燃やして、焼却灰になったら、濃度は高くなる。町民にとっては大変な問題である。今、このことを重要に思はない町民はいないと思います。4月に県から要請があった時に、6月議会で知らせようという気持ちにならなかったのか。

町長

今回の一般廃棄物については放射能を含んだ廃棄物と言うのは全く想定していません。福島県内からの災害廃棄物の受け入れ要請はないものと思っている。全国各地で廃棄物の受け入れを表明しているので、

一番西にある長崎県には相当先の話になると思う。具体的に話があった時は福祉組合の議会、町の議会にも報告する必要があるのではないかと考えていた。

久保田かずえ町議

受け入れが決まった時には議会に知らせて下さい。町民の事をまず考えて下さい。

## エネルギーは地産地消・高知県檮原(ゆすはら)町



風車の売電益により、CO2の排出削減設備の普及とCO2吸収源の整備を図っています。

檮原町のホームページより



檮原川にあるわずか6mの落差を利用して、発電出力53kwの小水力発電を行っています。